趣意書

歐亞の空に低迷せし暗雲漸くにして一掃され天日を仰ぐを得今や偸安の蔓の甘きに醉はんとす幾何もなく思想界の世界的大動搖は吾日東帝國に澎湃として波動し來り囂々として歸趨する所を知らず加之經濟界の反動的大恐慌の襲來するあり人心をして危殆に導き今にして中正にして健實なる國家的思想の確立を期せずば或は帝國の興隆に暗影を投ずる懼なしとせず是の秋に際し起つて自ら鐘樓に登り曉鐘を亂撞し民人の耳朶に殷々たる新聲を傳へ其の覺醒を促し能く一世を指導誘掖し一切の上に光被覆給する光耀に浴せしむるは實に時代の先驅を以て自ら任ずる青年學徒の任に非ざるか此の時に膺り年來本縣諸先輩の御指導の下に回を重ね來りし吾佐賀縣學生大會は來る七月三十日其の十三回の大會を綠城の地縣立鹿島中學校に於て開催せんとす。

近代に於ける人類交通能力の發達は其の思想生活を世界大に擴大せしめ一切の生活をして全然世界的たらしめんとす吾人の政治經濟生活より宗教藝術諸般の現象一として世界的事情の圏外に孤立するものあるなし嘗つて各民族各國民獨自の環境の下に成就したる所謂國民文化は今や一丸となり渾然たる世界人類の文化を創造せんとす而して此趨勢と云ひ現象と云ふも要ずるに人類生活の反影なり其根本的要素は人を除いて何物もあらざるなり人は萬事の原動力なり本体なり一切なり。此の世界的大動搖の秋に際し我帝國をして渾圓球上に重からしめ世界人類の救濟主となり一大福音を宣傳する重大なる使命を有する吾帝國をして其の使命を全うせしむるには幾多の偉材ある人傑を要す其の養成は實に焦眉の急務なりと言ふも誣言に非ざるなり。縣下垂千の青年學徒一堂に會し鄕黨和親の裡に或は諸先輩の高敎に接し或は燃ゆるが如き理想に輝く胸中の思想を吐露し互に切瑳し或は武技に身体を鍛練し不撓の精神を養はんとす豈に意義なしとせんや。

冀くは先輩諸賢本會の擧に御賛同御援助せられん事を。

大正九年七月

第十三回佐賀縣學生大會幹事

（イロハ順）

慶應義塾大學理財科學生　井手與四七郎
東京帝國大學法學部學生　長谷川公一
早稻田大學政治經濟學部生　勝屋弘治
東京帝國大學法學部學生　吉原政智
早稻田大學商學部學生　堤　敏一
京都帝國大學法學部學生　植松英夫
東京商科大學學生　大島彦太郎
九州帝國大學醫學學生　大坪豐
中央大學商學部學生　栗山滿次
中央大學商學部學生　福島忠次
京都帝國大學醫學部學生　枝國公一
慶應義塾大學經濟科學生　北村克也
早稻田大學商學部學生　新鄕勇一
九州帝國大學醫學部學生　東小一

石丸勝一殿